今井小だより

横浜市立今井小学校
令和６年１月１１日
学校だより１月号

学校教育目標　：　か　が　や　い　て　い　る　子　　「自分大好き！今井大好き！」

「第９」の思い出から

学校長　松永　史郎

今年も穏やかなお正月を迎えられた･･･と思った矢先の地震や航空機事故のニュース、本当に驚きました。ご親族やお知り合いに被災された方がいらっしゃる皆様、そして被災されたすべての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、日本では、年末にベートーヴェン作曲の交響曲第９番を演奏することが多く、今シーズンも先月はたくさんのオーケストラと合唱団が第９交響曲を演奏していました。この習慣は日本だけのものだそうです。

なぜそうなったか調べてみると、昭和 22 年に現在の NHK 交響楽団の前身の日本交響楽団が、12 月に３日連続してこの曲を演奏するコンサートを開催したのがきっかけだそうです。

第４楽章の有名な「歓喜の歌」の歌詞が、「勝利に突き進む英雄のごとく、自らの道を行け」「抱擁と接吻を全世界に」「すべての人々は兄弟になるのだ」という、いつの時代にも通じるメッセージ性をもっており、高揚感のあるメロディと相まって人々の心を打つのでしょう。それが、翌年の平和を願う年末の気分にもぴったり合うからかもしれません。

現在の世界の情勢や、日本の状況（まさか新年早々にこのようなことが起こるとは思ってもいませんでしたが）を考えても、この曲のもつメッセージ性は益々意味をもってきていると言わざるを得ません。

実は自分もこの曲を合唱団の一員としてステージで歌ったことがあります。大学４年生のやはり 12 月に、卒業の記念にということで、友人といっしょにオーディションを受けて、東京のプロオーケストラの付設合唱団の一員として、当時はまだ新しかったサントリーホールの舞台に立ちました。

その経験自体も良い思い出ですが、ある日のコンサートでいろいろとハプニングがあったことも忘れられない思い出です。その日は販売用のビデオ撮影カメラが入っており、開演前からそれまでの何回かの本番より緊張感が漂っていました。

まず、本番の演奏中にティンパニーのマレット(バチ)の先が外れて、客席に向かって飛んでいきました。でも奏者は、何事もなかったように、一本のマレットで演奏を続けながら、予備のマレットを取り出し、演奏は続きました。

そしていよいよ第４楽章のクライマックス。ソプラノパートが高音で長く音を伸ばした後のことです。合唱団員の一人が酸欠状態になってステージ上でバタリと倒れてしまいました。そのときも、後ろの人がさっとからだを引き出して、さりげなく舞台袖に運び出し、演奏は途切れることなく続けられました。(倒れた団員もすぐに回復したそうです。)

そのときに、改めてプロはやっぱりすごいと感心しました。オーケストラ団員はステージ上での様々なハプニングを想定していて、そのようなときにどうするか共通理解しているそうです。(例えば、バイオリンの弦が切れてしまったときには後方の奏者の楽器と順に交換しながら演奏を続け、最後列の奏者が弦の交換に向かう…等々)

そんなことを思い出しながら、私たちの日々の生活も、学校の教育活動も、もちろんハプニングが無いことが一番ですが、何かあったときにどうするか事前に想定しておくことが大切なのだと改めて思っています。

最後になりましたが、今年も本校の教育活動へのご理解とご協力を引き続きいただきますようお願い申し上げます。

お知らせ

日頃より本校児童の登下校時の見守り活動でたいへんお世話になっている「今井小学校学援隊」が交通安全功労団体として神奈川県から表彰されました。今回は本校からの推薦ではなく、学区内の神奈川県立商工高等学校からの推薦によるもので、令和３年表彰に続く快挙となります。本校のみならず、地域の交通安全への多大な貢献に改めて感謝申し上げます。

なお、学援隊メンバーは年間を通して募集しています。毎日ではなくても可能な限りのお時間でご協力いただける方は、その旨学校(副校長)までお知らせいただきますようお願いいたします。